



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931

## 関係各機関との連携によるニホンジカ痕跡調査実施！

日本各地の森林生態系に深刻な影響を及ぼしているニホンジカ。当センターも白神山地区及びその周辺で、赤外線センサーカメラを設置し、年間を通して監視していることは本誌1月号（No.196）でお知らせしたとおりです。

当センターは、それ以外にも関係各機関と連携してニホンジカ痕跡の調査をし、また情報交換をして、より精度の高い情報収集に努めています。以下に冬季に実施した連携の取り組みを紹介します。

### 2月22日（水）

この日は弘前大学、環境省西目屋自然保護官事務所の方たちと青森県深浦町内の山林でニホンジカ越冬地の痕跡調査を実施しました。まだ積雪がある中、ニホンジカの痕跡を求めて山野を歩き回り、ようやく見つけた動物の食痕や糞。私たちはこれらをお宝を分け合うようにして（笑）凍てついた雪の中から採取しました。なお、このとき採取した試料は後日、森林総合研究所東北支所に分析を依頼し、そのすべてがニホンジカのものであることが確認されました。現地で弘前大学の先生からニホンジカの生態等について、実地でお話を伺うことができたのも、私たちにとって大変勉強になりました。



痕跡を求めて雪中を歩く



無残に食べられたササ



雪中に半ば凍りついた糞

### 3月8日（水）

この日は深浦町役場の方たちが、ニホンジカ調査のため専門業者に委託して、赤外線カメラ（このカメラだけで100万円以上するそうです！）を搭載したドローンを飛行させるというので立ち合わせていただきました。当日はあいにくの強風で短時間しか飛行させることができず、ニホンジカの動向を得ることはできませんでしたが、「参考に」と数日前の夜中に別の箇所で撮影した映像を見せていただきました。そこには漆黒の中にもかかわらず、赤外線カメラが十数頭ものニホンジカの群れを撮影しているだけではなく、じゃれ合って角突き合わせる様子、山林を逃げるその移動ルートまでくっきりと映し出されているではありませんか！ドローンと赤外線カメラ

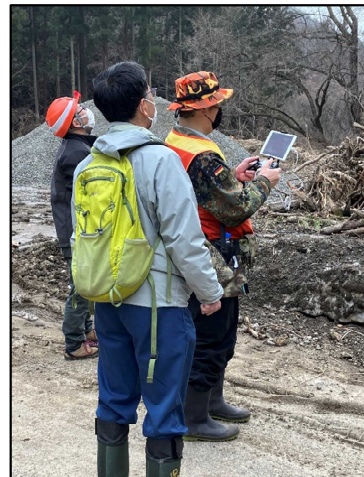


赤外線カメラ搭載ドローン

を併用するとここまで分かるのかと、驚くとともに、新しい技術を使用すれば、より効率的なニホンジカ対策を取ることができる可能性を感じとることができました。



いよいよ飛行開始



風の中飛行を見守る

### 3月14日（火）

この日は深浦町役場の方にも同行を願い、森林総合研究所東北支所の方たちと深浦町内でニホンジカの痕跡調査を実施しました。

まずは我々の赤外線センサーカメラでニホンジカがよく撮影されるポイントへ案内すると、そこには真新しいヌタ場が！早速、総研の方がそこに残されている獣毛を目ざとく見つけて採取しました（後日カメラを確認すると、ヌタ場は調査日の未明に、オスのニホンジカによって掘られたも



真新しいニホンジカのヌタ場

のでした)。



ヌタ場から獣毛を採取



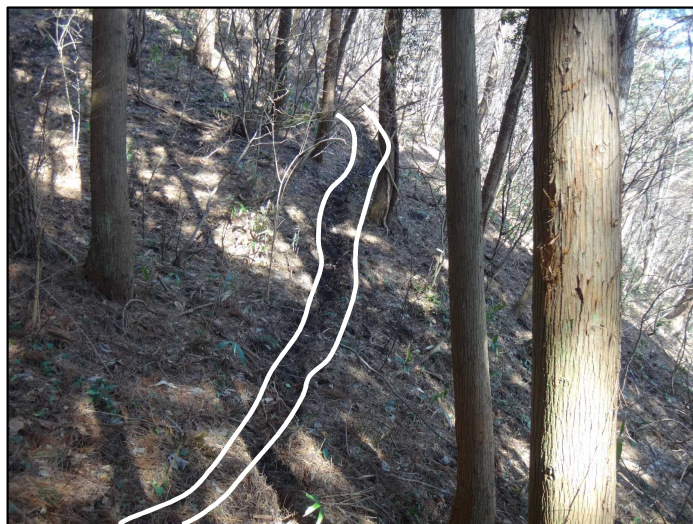
獣毛を拡大したもの

次は深浦町役場の方に案内していただき、先日のドローン飛行で十数頭の群れを発見した場所に入りました。林内に入ると早々にニホンジカのものと思われる大量の糞や、はっきりとした踏み跡などが見られ、まるで今までそこにニホンジカがいたかのようでした。

町役場の方たちの周辺を含めた現地状況の説明、総研の方たちが口にする危機感に、私たちも身が引き締まる思いするとともに今後の対策の必要性を痛感しました。



ニホンジカの根城へ突入



ニホンジカが付けた踏み跡

なお、後者については、町役場に連絡を入れた上で、後日（3月22日）再訪し踏み跡をたどってみました。急な斜面を喘ぎながらたどっていくと、私たちが予想したとおり、踏み跡は国有林との境界がある尾根まで続いていました。そこでは食痕、糞、寝床らしきくぼみ等々があちらこちらに見られ、ニホンジカの群れがそこを休息地としていることが推測されました。もちろん、現在のところそれは推測の域を出ないのですが、今後も関係機関との情報交換や地道な踏査を重ねていって、ニホンジカ対策に資する情報を蓄積していく、という思いを新たにしました。

以上駆け足で、関係各機関との連携によるニホンジカ痕跡調査の様子を紹介してきました。今回紹介した3回の調査は何れも深浦町内で実施しましたが、この後は3月28日に再び弘前大学、環境省西目屋自然保護官事務所の方たちと、西目屋村内で痕跡調査を実施する予定です。そこで採取した試料は、西目屋自然保護官事務所が所有する機器で、その日のうちにニホンジカのモノか否かを分析することとなっています。私は試料分析を実際に見るのは初めてになりますので、新しい経験ができることをとても楽しみにしています。

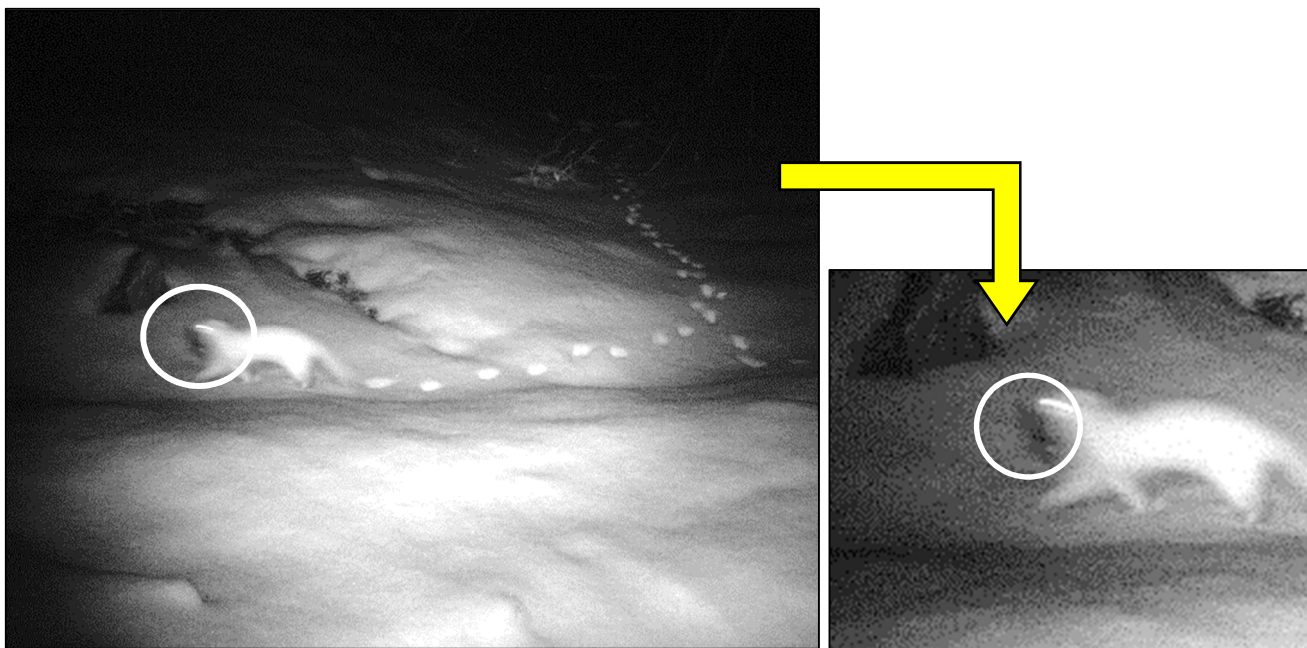
今後も私たち津軽白神森林生態系保全センターは、関係各機関と連携・情報交換をし、この白神山地及び周辺地域の生態系保全を推進していきます。(赤澤)

## コラム：夜のしじま（※）に生きる動物たち

私たち津軽白神森林生態系保全センターでは、冬期間も白神山地周辺地域において、ニホンジカ生息調査のため、赤外線センサーカメラを設置しております。が、そこに映されるのは、もちろんニホンジカだけではありません（と言いますかニホンジカはあまり映っていて欲しくはないのです。。。）。

カメラには、こんな動物たちも映り込んでいます。何だか分かりますか？私は分からなかったのですが、専門家の方に伺ったら、多分テンだろうとのこと。それが口先に何か、獲物らしきものを啜えています。

この写真はこの1月に撮影されていたものです。極寒の夜のしじま、動物たちは食べたり、食べられたり、懸命にその命を生きている、そんな自然の厳しさを垣間見た思いがしました。(赤澤)



テンと思われる動物が、何かを啜っている様子（右側は拡大したもの）

\* 写真は判別しやすいように、明るさを調節しています。

※しじま：物を言わないこと、静寂などの意味があります。